

東北地方 1か月予報

(7月17日から8月16日までの天候見通し)

平成16年7月16日
仙台管区気象台発表

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

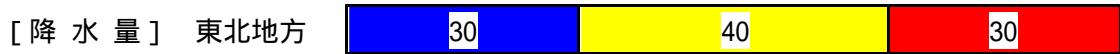
期間の初めは、梅雨前線や低気圧の影響で平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

その後は、太平洋高気圧に覆われ平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並でしょう。

週別の気温は、1週目は平年並、2週目は平年並、3~4週目は平年並でしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

<予報の対象期間>

1か月 : 7月17日(土) ~ 8月16日(月)

1週目 : 7月17日(土) ~ 7月23日(金)

2週目 : 7月24日(土) ~ 7月30日(金)

3~4週目 : 7月31日(土) ~ 8月13日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報:毎週金曜日 14時30分 次回は7月23日

3か月予報:7月22日(木) 14時00分

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温()	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温()		
				1週目	2週目	3~4週目
大船渡	22.8	150.1	168.7	21.4	22.8	23.3
新庄	23.9	159.9	183.5	22.8	24.0	24.4
若松	24.8	135.6	201.7	23.8	25.0	25.2
深浦	23.1	141.6	192.3	21.9	23.1	23.5
青森	23.0	109.9	193.2	21.6	23.0	23.6
むつ	21.5	111.9	162.3	20.1	21.5	22.1
八戸	22.2	109.2	182.5	20.7	22.3	22.8
秋田	24.5	157.2	198.4	23.3	24.6	24.9
盛岡	23.3	157.9	163.7	22.2	23.5	23.7
宮古	21.9	132.5	169.8	20.4	21.9	22.5
酒田	24.9	154.7	215.5	23.7	25.0	25.3
山形	24.8	134.3	185.2	23.6	25.0	25.2
仙台	23.9	145.3	154.9	22.5	23.9	24.4
石巻	23.1	108.2	175.6	21.8	23.1	23.7
福島	25.2	132.2	160.7	23.9	25.4	25.7
白河	23.3	181.0	156.4	22.4	23.5	23.7
小名浜	23.3	109.9	189.7	22.2	23.2	23.8

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.6~+0.7	74~118	90~112
東北日本海側	-0.6~+0.6	76~116	91~112
東北太平洋側	-0.5~+0.8	75~119	91~113

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.8~+1.1	-0.5~+1.1	-0.5~+0.9
東北日本海側	-0.7~+0.9	-0.6~+1.0	-0.7~+0.8
東北太平洋側	-0.8~+1.2	-0.5~+1.3	-0.4~+0.9

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温・降水量等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 確率は、それぞれの階級が実際に起こると予想される割合を表しています。信頼性の大きい予測資料が得られた場合には気候的出現率(階級の定義から各階級とも同じで33%)から大きく隔たった確率(10%や60%、70%など)を付けられますが、信頼性が小さい場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成16年7月16日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(7月17日~8月16日):

期間の初めは、梅雨前線や低気圧の影響で平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。その後は、太平洋高気圧に覆われ平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

平均気温は平年並でしょう。

1週目(7月17日~7月23日):

期間の前半は、梅雨前線や気圧の谷の影響で曇りや雨となるでしょう。期間の後半は高気圧に覆われて概ね晴れる見込みです。

平均気温は平年並でしょう。

2週目(7月24日~7月30日):

太平洋高気圧に覆われて平年と同様に晴れの日が多いですが、低気圧や前線の影響で天気の崩れる日もあるでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

3~4週目(7月31日~8月13日):

太平洋高気圧に覆われて平年と同様に晴れの日が多いですが、低気圧や前線の影響で一時天気がぐずつくでしょう。

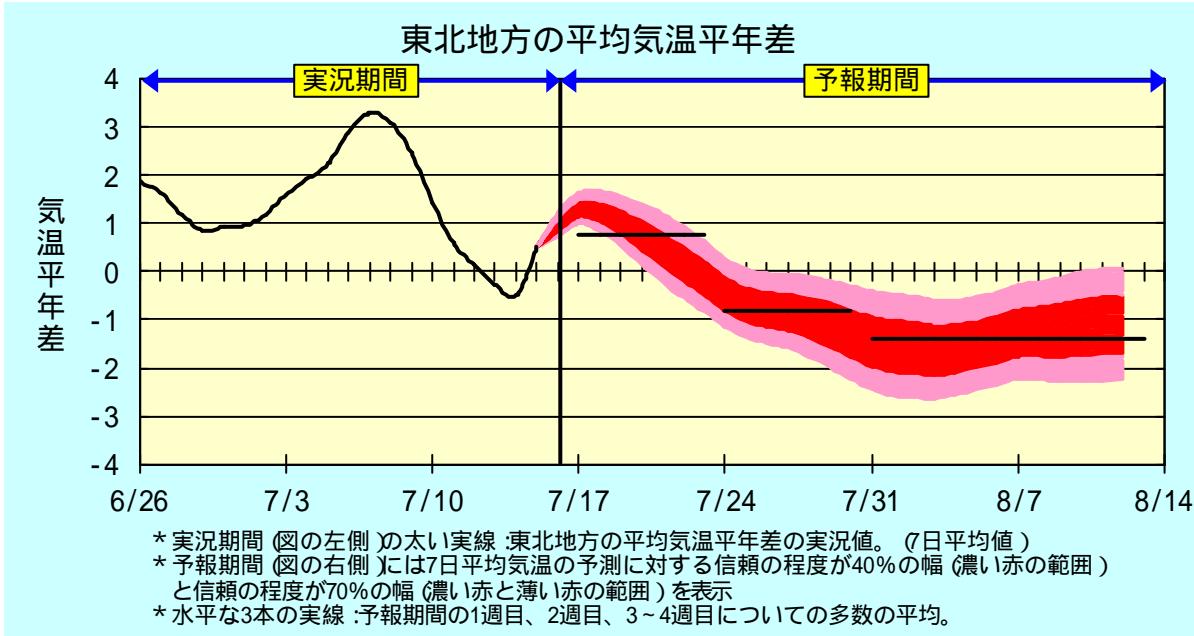
平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	16.1日	3.5日	4.2日	8.4日
東北太平洋側	14.2日	2.8日	3.7日	7.7日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目を「平年並」、2週目、3~4週目を「低い」と予想している。予報は、その他の資料から2週目、3~4週目を「平年並」とする他は数値予報どおりとする。なお、数値予報の信頼度は小さい。

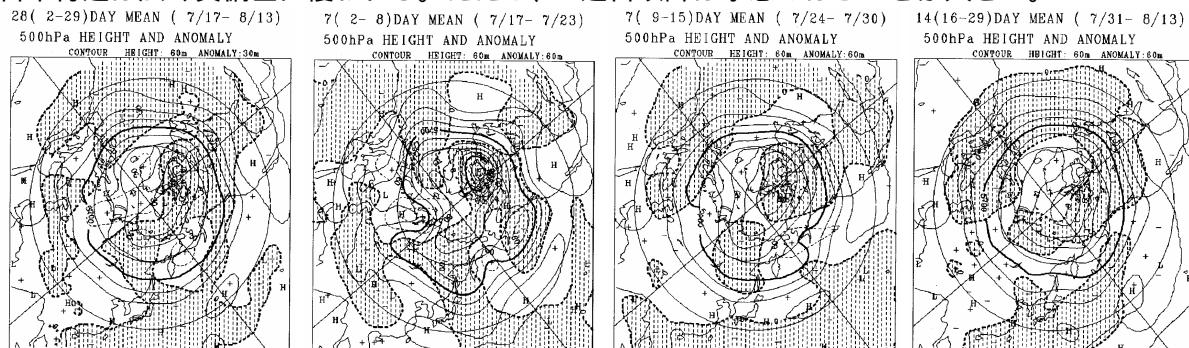


3. 数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

500hPa 高度と偏差：

月平均では、日本付近は中国大陸から西日本にかけて正偏差の他は、負偏差が広がる。

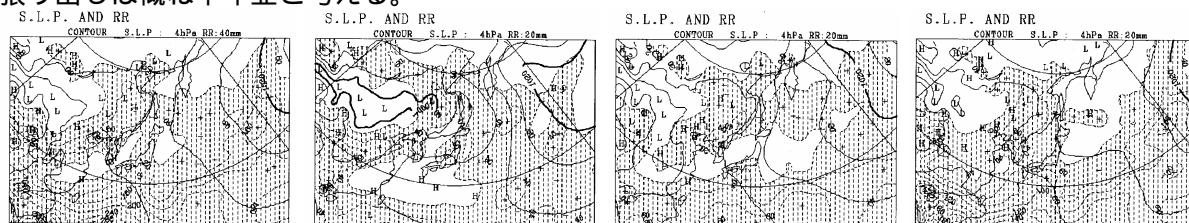
1週目は、西日本は亜熱帯高気圧に覆われ正偏差だが、東日本は負偏差で、日本の東が気圧の谷となる。2週目は、日本付近は帯状の正偏差に覆われる。3~4週目は、北日本は正偏差だが、日本付近は広く負偏差に覆われる。ただし、2週目以降は予想のばらつきが大きい。



地上気圧と降水量：

月平均では、日本付近に太平洋高気圧が張り出しが、日本の南はまとまった降水域が見られる。

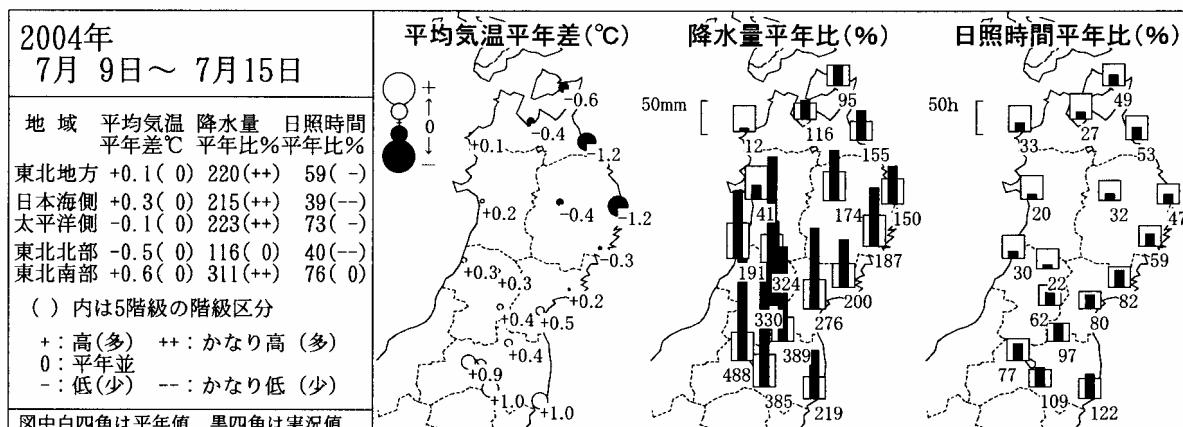
1週目は、東日本以西に太平洋高気圧が張り出しが、北日本は低圧部となり降水域がかかる。2週目は、低圧部が沿海州まで北上し、日本付近は太平洋高気圧に覆われる。3~4週目は、北日本に高気圧が張り出し、日本の南海上は低圧部となって熱帯擾乱に対応すると見られるまとまった降水域がかかる。ただし、日本の南の熱帯擾乱は割り引いて考え、太平洋高気圧の日本付近への張り出しが概ね平年並と考える。



4. 最近1週間（7月9日～7月15日）の天候の経過

期間の初めは、高気圧に覆われ概ね晴れて真夏日となる所が多かったが、寒冷前線の通過や大気の状態が不安定となり、各地で雷雨となった。期間の中頃からは、北陸から東北地方に停滞した梅雨前線が活発化し雨や雷雨となった。特に、12~13日の平成16年7月新潟・福島豪雨により福島県では行方不明者や浸水など大きな被害が発生した。なお、13日の若松の日降水量が162mmと7月の極値を更新した。

平均気温は平年並。降水量は東北北部で平年並、東北南部でかなり多い。日照時間は東北北部でかなり少なく、東北南部で平年並。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)